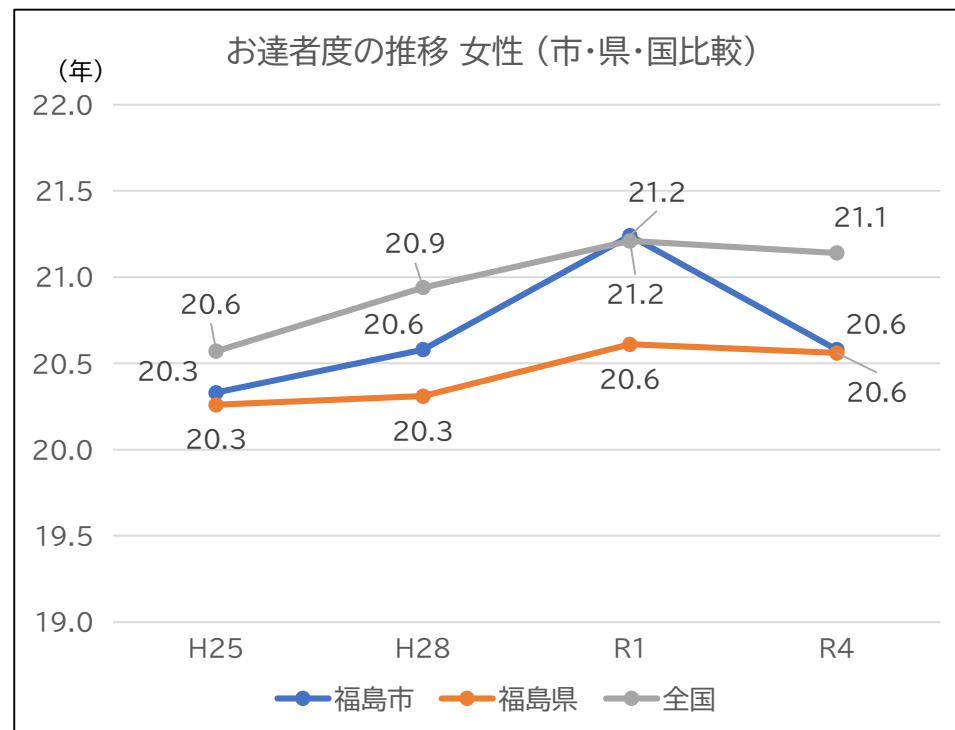
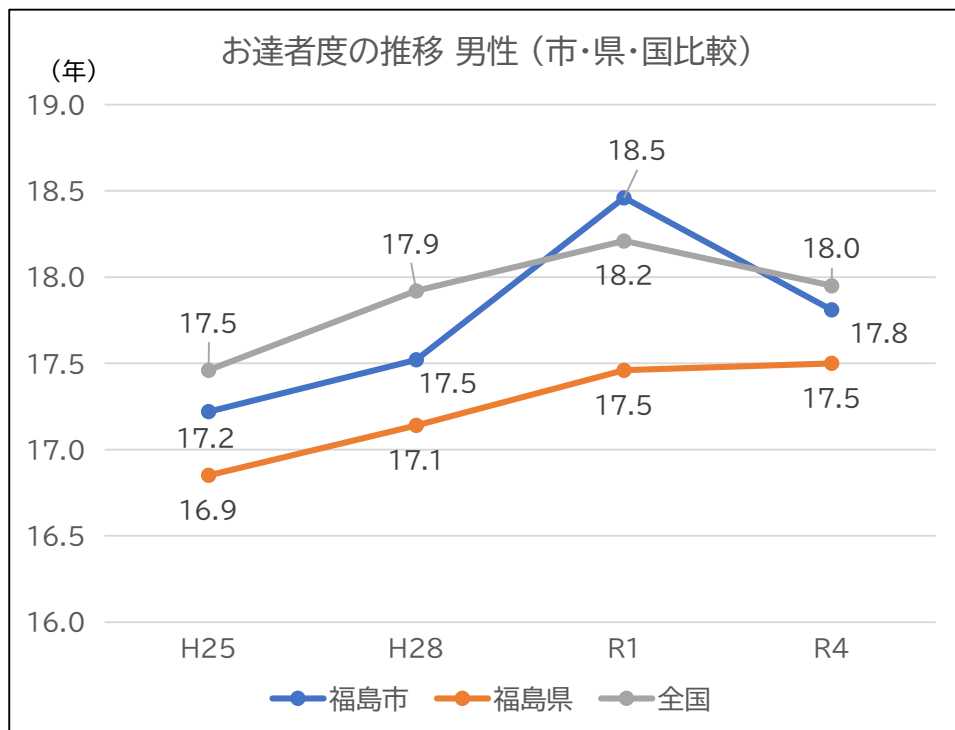


「データでみる福島市の健康」より一部抜粋

資料3

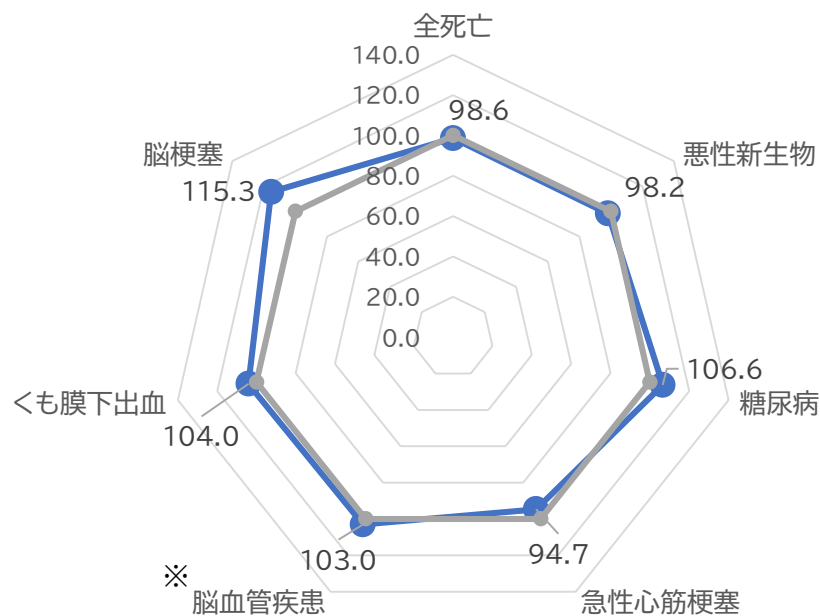
- お達者度：65歳の日常生活動作が自立している期間の平均。福島県が3年に1度算出・公表している。
65歳時点での平均余命から、不健康な(要介護認定)期間の平均を差し引いた期間にあたる。
「お達者度 = 65歳時点の平均余命 - 不健康な期間の平均」



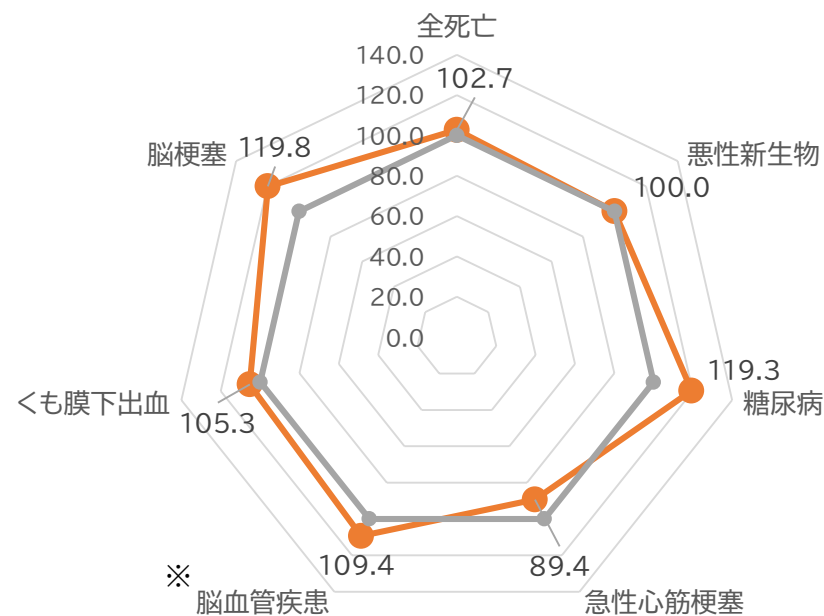
- ・福島市のお達者度は、令和元年までは大幅な延伸がみられたが、令和4年では男性が0.7年、女性が0.6年の減少となった。
- ・福島県、全国においても令和元年から横ばいまたは減少がみられるが、福島市は特に減少幅が大きい状況である。

- 標準化死亡比(SMR)：年齢構成の異なる地域間で、死亡状況を比較するための指標。
 全国を基準(100)とし、その地域でどれだけ死亡が起こりやすいかを表している。
 100より値が大きい(小さい)と、全国と比べて死亡が起こりやすい(にくい)と解釈できる。

令和元年～令和5年 福島市男性 標準化死亡比(SMR)



令和元年～令和5年 福島市女性 標準化死亡比(SMR)



※ くも膜下出血、脳内出血、脳梗塞、その他合算

- ・福島市の標準化死亡比(SMR)は、死因別では「脳梗塞」の値が特に高い。
- ・「糖尿病」においても標準化死亡比(SMR)が高く、男女差がみられた。
- ・「急性心筋梗塞」の標準化死亡比(SMR)は、全国基準よりわずかに低い。